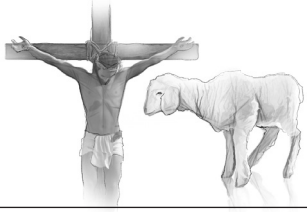
11課

6月12日

新しい契約の聖所



安息日午後　6月5日

暗唱聖句

こういうわけで、キリストは新しい契約の仲介者なのです。それは、……召された者たちが、既に約束されている永遠の財産を受け継ぐためにほかなりません。（ヘブライ9：15、新共同訳）

それだから、キリストは新しい契約の仲保者なのである。それは、……召された者たちが、約束された永遠の国を受け継ぐためにほかならない。（ヘブライ9：15、口語訳）

今週の聖句

出エジプト記25：8、イザヤ53：4〜12、ヘブライ10：4、ヘブライ9：14、ヘブライ8：1〜6、1テモテ2：5、6

今週のテーマ

だれもいない通りを歩いているフランクを、闇がすっぽりと包んでいました。彼は、闇の中で自分に近づいてくる足音を聞きました。その影はやがて彼に追いついて、いきなり言いました。「印刷屋のフランクですか？」

「そうだけど、どうして私のことを？」

「それは……」見知らぬ人は答えました。「私はあなたのことは知りません。でも、あなたの兄弟をよく知っているんです。こんなに暗い中でも、あなたの仕草、歩き方が彼にそっくりだったもので、あなたは彼の兄弟じゃないかと思ったんです。彼が、自分には兄弟がいるって言っていたんですよ」

この物語は、イスラエルの聖所の奉仕についての力強い真理を表しています。聖書は、それは影であり、型であり、本物の写しであると言います。にもかかわらず、その影と写しは、それらが代表する真理である、キリストの死と天の聖所における大祭司としての働きを指し示すのに十分なのです。

今週のポイント

神はなぜイスラエルに聖所を建てるように望まれたのでしょうか。聖所は私たちの身代わりとしてのキリストについて、何を教えていますか。イエスは私たちの代表として天で何をしておられますか。

日曜日　6月6日　関係

「わたしはあなたたちのただ中にわたしの住まいを置き、あなたたちを退けることはない。わたしはあなたたちのうちを巡り歩き、あなたたちの神となり、あなたたちはわたしの民となる」（レビ26：11、12）。

ここではっきりさせておくべきことがあります。「古い」契約であれ、「新しい」契約であれ、神はその民との愛のうちにある親しい関係を求めておいでだということです。事実、契約は、基本的には、契約関係のための「規約」（ほかに良い言葉が見つからないのですが）を補うものなのです。関係はどんな時代にも、どんな文脈においても契約になくてはならないものです。しかし、関係が存在するためには、関わり（かか）や交わり、そして触れ合いが必要です。罪深い、誤りに陥りがちな、不確かな人間の中にあっては特にそうです。

問1　出エジプト記25：8にあるように、主はイスラエルに聖所を建てるようにお命じになりました。この命令にはどんな理由があったのでしょうか。

この問いの答えは当然別の問いを生みます。それは、「なぜ」です。なぜ主はその民の中に住むことを望まれたのでしょうか。

真実はおそらく、今日の聖句の中に見いだすことができるでしょう。主は彼らのうちに「住まいを置き」（あるいは住む）と言われることに注目してください。次に主は、彼らを「退けること」はないと言われ、さらに、主は彼らの間を「巡り歩き」、そして主は彼らの神となり、彼らは主の民となると言われます（レビ26：11、12）。これらの聖句の中にある要素に注目してください。〔主と民との〕関係という要素がはっきり示されています。

問2　レビ記26：11、12と出エジプト記25：8を読んで、そこに書かれていることがすべて、主がその民との関係を求めておられることにつながるか書き出してみてください。

特に主が、「わたしは……あなたたちを退けることはない」と言われていることに注目してください。聖所は、堕落した罪深い人類が主に受け入れていただくために、どんな手段を提供していますか。その手段は契約を結ぶ過程において、なぜそれほど重要なのでしょうか。

月曜日　6月7日　罪、犠牲、受容（ヘブ9：22）

旧約時代において、罪人の罪と罪の意識を取り除くために天が定めた方法が動物の犠牲でした。イスラエルの犠牲の献げものについては、レビ記1章から7章に詳しく書かれています。さまざまな犠牲の種類において、血の用い方と捨て方には特に注意が払われました。実に、犠牲の儀式における血の果たす役割は、イスラエルの犠牲制度を貫いて一つにすることなのです。

罪を犯した人は、――契約関係と、それを定めた律法を破るのですが――、身代わりとして動物の犠牲を供えることによって、神と人との関係が完全に回復されるのです。犠牲は、その儀式と共に、罪と罪の意識からの清めをもたらす手段として、神がお定めになったものです。犠牲は、罪人を清め、その罪と咎を、血をふりかけることによって聖所に移し、そして個人的な救い主であられる神との交わりを再び定め、悔い改めによる契約の交わりを完全に回復するのです。

問3　上の段落に表された犠牲についての思想は、日曜日の最後のまとめに答えるのに、どのような助けとなりますか。

問4　動物の犠牲の中には、どんな預言的な意味がありますか（イザ53：4～12、ヘブ10：4）。

旧約時代の動物の犠牲は、罪人の罪と咎を取り除くために天が定めた手段でした。犠牲は、罪人を有罪と死の身分から、赦罪と神との契約関係への回復という身分に変えたのです。しかし、動物の犠牲制度の中には預言的な意味も含まれていました。結局のところ、人間の罪と咎を贖うにふさわしい身代わりは動物ではなかったのです。パウロは、次のように言っています。「雄牛や雄山羊の血は、罪を取り除くことができないからです」（ヘブ10：4）。このように、動物の犠牲は、来るべき神であり、人である神のしもべの到来を待ち望むことを意味するものでした。そのお方は世の罪のために身代わりとして死ぬのでした。罪人が赦され、主に受け入れられるのは、この過程を通してであり、そうして契約関係の基礎が回復されるのです。

あなたが聖所で動物の犠牲を献げる旧約時代に生きていたとして、家畜が経済、文化、生活にとって、どれほど大切であったかを考えてください。これらの犠牲は、罪の価について、どんな教訓を教えたでしょうか。

火曜日　6月8日　身代わり

「キリストは、わたしたちの神であり父である方の御心に従い、この悪の世からわたしたちを救い出そうとして、御自身をわたしたちの罪のために献げてくださったのです」（ガラ1：4）。

問5　上記の聖句を瞑想した後に、次の質問に答えてください。イエスは死を自ら志願したのでしょうか。彼はだれのために死んだのでしょうか。彼の死は何を完成させましたか。

身代わりは、救いの計画全体の鍵です。私たちの罪のために、私たちは死に価する者だからです。キリストは、私たちに対する愛のゆえに、「御自身をわたしたちの罪のために献げてくださったのです」（ガラ1：4）。彼は私たちが負って当然の死を負ってくださったのです。罪人のための身代わりとしてのキリストの死は、すべての真理がそこから流れ出る、最も大いなる真理なのです。私たちの回復、自由、赦し、天国での永遠の命はみな、イエスがなさった私たちの罪のためにご自身をお与えになった御業にかかっているのです。この御業なくして私たちの信仰は虚しいものです。救いはただ、血を通して、しかもキリストの血を通してのみもたらされるのです。

問6　マタイ26：28、エフェソ2：13、ヘブライ9：14、1ペトロ1：19を読んでください。これらの聖句は、キリストの血について何を語っていますか。救いの計画の中で、血はどんな役割を果していますか。

「あなたが信じない者であり、罪深く、救いに価しないので、神はあなたをお受け入れにならないのでは、という恐れに捕らわれて、自分の魂を苦しめることは主の御心ではない……。あなたは、『私は罪人です。だからこそ私には救い主が必要なのです……。私には何の功績もなく、救いに価する何の良きものも持ってはいません。しかし私は、世の罪を取り除く傷のない神の小羊の血によってすべてを贖われる神の御前にいること、それだけは誓えます』と言うことができる」（エレン・ホワイト『私は信仰によって生きる』100ページ、英文）。

上の引用を自分の言葉で書き直してみましょう。あなたの恐れと痛みをそこに置き、あなたに与えられている約束を書き出してみましょう。あなたは新しい契約の血によって、どんな希望を持っていますか。

水曜日　6月9日　新しい契約の大祭司

地上の聖所において、動物の犠牲を中心にして、神はその民と共に住むことをお選びになりました。しかし、この奉仕は、これらの被造物の死で終わるのではありませんでした。祭司は、**犠牲の動物が殺された後に**、罪人のために聖所でその血をもって務めを行いました。

しかしながら、この奉仕の全体はキリストが世のためにされることの影であり、象徴にすぎませんでした。このように、象徴である聖所の奉仕は、動物の死をもって終わるのではなく、私たちのためのキリストの働きもまた、彼の十字架の死で終わるのではありませんでした。

問7　祈りのうちにヘブライ8：1〜6を読んでください。そこに言われていることが理解できるよう主に求めましょう。これらの聖句を通して、主があなたにお語りになることを書き出してみましょう。それは、新しい契約を理解するのにどのような助けになりますか。

古い契約に基づいて、地上の聖所、祭司とその務めがあったように、天の聖所においても、新しい契約に基づく天の聖所、天の祭司、そして天での奉仕があります。しかしながら、古い契約の下では象徴、型、そして影（ヘブ8：5）に過ぎなかったもので、新しい契約において本物となったものは何だったのでしょうか。

私たちの身代わりとして、私たちには、道徳観念を持たない動物ではなく、罪のないキリストがおられるのです。私たちには、動物の血ではなく、キリストの血があるのです。私たちには、人のつくった聖所ではなく、「人間ではなく主がお建てになった聖所また真の幕屋」があるのです（ヘブ8：2）。そして罪深く過ちを犯しやすい人間の祭司ではなく、私たちには、私たちのために奉仕される大祭司であられるイエスがおられるのです。これらのことを心に留めて、次のパウロの言葉について考えてみましょう。「わたしたちは、これほど大きな救いに対してむとんちゃくでいて、どうして罰を逃れることができましょう」（同2：3）。

考えてみてください。イエスはあなたのために罪のない生涯を生き、あなたのために死に、そして今、天の聖所で、あなたのために奉仕しておられるのです。それらすべては、あなたを罪の恐ろしい最終的な結果から救うためだったのです。この良き知らせを必要とする人に語る計画を立てましょう。今日の学びを振り返って、何を語るべきかあらかじめ準備しましょう。

木曜日　6月10日　天での奉仕（ヘブ9：24）

ヘブライ9：24を研究しましょう。特に、私たちのために犠牲として死なれた後、私たちのために天で奉仕をしておられるキリストを説明する前後の文脈に注意してください。今やキリストは、私たちのために神の御前に現れてくださったとあります。

これはどういう意味でしょうか。罪深い堕落した人間であり、御前に出れば神の栄光の輝きに焼き尽くされてしまう存在である私たちが、どれほど悪い者であり、どれほど大胆に神の聖なる律法を侵してきたかによらず、**私たちのために、**神の御前に出てくださるお方があるというのです。私たちには、私たちのために父なる神の御前に立つ代理人があるのです。キリストが、この地上でどれほど愛に満ち、赦しに富み、罪人を受け入れるお方であったかを考えてください。**その同じお方が今、私たちの仲保者として、天で奉仕しておられるのです。**

これは福音のもう一つの部分です。イエスは私たちの罪のために代価を支払われただけでなく、それらの罪をすべて十字架の上でその身に負われたのです（1ペト2：24）。しかし今、主は天と地をつなぐ仲保者として、人類と天をつなぐ仲保者として、神の御前に立っておられるのです。

ここにすべてが完全に意味を成します。イエスは神であり（罪なき完全な）、人として、罪の結果である人類と神の間の深い溝の架け橋となることのできる唯一のお方です。私たちが覚えておくべき最も重要なことは、私たちの試練、痛み、誘惑のすべてをご存知の1人の人、1人の人間がおいでになり（ヘブ4：14、15）、その方が今、父なる神の御前に私たちの代理人として立っておられるという事実です。

これこそが、新しい契約のすばらしい知らせなのです。悔い改めた罪人には今、イエスのゆえに、天の父なる神の御前で彼らの代わりに立つ方があるのです。主は彼らが自分たちでは決して手に入れることのできないものをくださったのです。それは完全な義、すなわち神の御前に立つことのできる唯一の義です。イエスは、その生涯のうちに苦しみを通して成し遂げられた完全な義をもって神の御前で、私たちのために罪の赦しと罪に勝つ力を願い求めておられるのです。なぜなら、それらなしには、私たちに来るべき裁きにおいて、希望はないからです。

祈りのうちに、人として、罪の誘惑を経験された方が天で神の御前に立っておられる姿を瞑想しましょう。それは、あなた個人にとって、どんな意味を持ちますか。どんな勇気と励ましを得ることができますか。

金曜日　6月11日　さらなる研究

「天で最も位の高い天使でさえ、一人の失われた魂のための代価を支払うことはできない。……人を神に和解させることができるのは、神と等しくあられた仲保者を通してのみ成し遂げられるのである。このお方は、人を代表して無限の神と交渉し、また堕落した世に神を現すにふさわしい威厳と属性を備えておられた。人の身代わりとして、彼が代表する人類家族とつながる人性を備えている必要があった。そして、世に神を現す神の大使として、神と人との間の仲保者として、無限のお方とつながる神性をも備えていなければならなかった」(『セレクテッド・メッセージ』第1巻257ページ、英文)。

「イエスは続けてこう言われる。あなたがたが人々の前でわたしを告白するように、わたしも神と聖天使たちの前であなたがたを告白しよう。あなたがたは地上にあってわたしの証人、世の人々をいやすためにわたしの恵みが流れて行く水路となるのである。同じようにわたしも、天においてあなたがたを代表する者となる。天父はあなたがたの欠点のある品性をごらんにならないで、わたしの完全を着せられたあなたがたをごらんになる。わたしは天父の祝福をあなたがたに注ぐ仲立ちである。そして、失われた者のためにわたしと犠牲を共にすることによって、わたしを告白する者はだれでも、あがなわれた者の栄光と喜びを共にする者として、わたしはその人を告白しよう」(『希望への光』853、854ページ、『各時代の希望』中巻91ページ)。

話し合いのための質問

❶ ローマ5：2、エフェソ2：18、3：12を読んでください。これらの聖句は、私たちがイエスを通して父なる神に行くことを理解する上で、どのような助けになりますか。

❷ 上のエレン・ホワイトの引用文を見てください。彼女は仲保者の役割をどのように説明していますか。父なる神が私たちをご覧になるとき、私たちの欠点の多い品性でなく、キリストの完全をご覧になるとはどういう意味でしょうか。クラスで話し合いましょう。

❸ 今週学んだことを復習しながら、次の質問に答えてください。「キリストが天の聖所にいるのはわかりましたが、それが日々の実際の暮らしとどう関係があるのですか」

まとめ

旧約の犠牲制度は、新しい契約に取って代わられ、地上の聖所で罪ある祭司によって献げられる動物の犠牲に代わって、今や、私たちのための完全な犠牲であられるイエスがおられます。彼は天の聖所で父なる神の御前で私たちの代表者として立っておられます。これが新しい契約と約束の土台を形づくる思想です。

死にかけた教会を元気にした少年

セブンスデー・アドベンチスト教会の長老が、8歳のアレハンドロに、連続伝道講演会で説教して欲しいと母親にお願いしてきました。「私たちは収穫目的でなく種まきをしたいのです」と告げました。

その教会は、カリブ海のコロンビア沿岸の島、ティエラ・ボンバにあり、死にかけていました。第1長老が辞任し、教会を去ったのです。教会員たちは落胆し、多くの人々が、安息日に礼拝するのを止めてしまいました。アレハンドロは4歳の時から説教してきましたが、伝道講演会の初日はおびえていました。しかし、母親がやさしく抱きしめ、共に祈りました。

少年の説教を聞くために、大勢の人が教会の庭に集まってきました。ところが、1週間続く集会を邪魔するため、元第1長老は、自ら別の集会を組織しました。彼は、毎日自分の集会に出席するよう、以前と現在の教会員を招待しました。人々が、元第1長老の家に向かって歩いている途中、教会で少年が話しているのを見て、立ち止まりました。「あの子どもの説教者はだれだろう」と彼らは思いました。多くの人々が立ち止まって、アレハンドロの話を聞きました。

元第1長老は、人々がアレハンドロの集会に行くので動揺し、自分の家に来るよう、強要しました。「来なさい！　さあ、行こう！」彼は、人々の腕をつかみ、無理に連れて行こうとしました。何人かは彼と共に行きましたが、またこっそり、アレハンドロの説教を聞きに戻ってきました。このようなことが何日か続いた後、教会員は、元第1長老を連続伝道講演会に招待しました。すると、彼はやって来ました。

講演会の期間、アレハンドロはバプテスマの招きに応えた人々を訪問しました。1回目の訪問で3人がバプテスマを受ける決心を固めました。2回目の訪問では、結婚間近のカップルがバプテスマを決心しました。1週間の講演会が終わる時には、7人の人々がバプテスマを受けました。

アレハンドロは、島を幸せにして去りました。教会員たちも幸せでした。現在も、教会は強められ、成長し続けています。

「イエス様が勝利してくださったのです！」と、アレハンドロは言います。